

# プロジェクトタイトル: 観光は生活を脅かすのか

プロジェクト代表者: 張 博一

## 1. プロジェクトの目的・概要

「観光が生活を脅かす...小樽からの報告」。これは2025年4月5日の北海道新聞の記事のタイトルである。観光客が増加したことで、地域住民の生活に影響が生じ、オーバーツーリズムが深刻化していることは事実である。他方で、観光客の誘致、インバウンド収益は小樽市の経済活性化にとって不可欠であり、経済面に加えて、旅先として選択してもらい、思い出に残る魅力のある街にすることは小樽市が将来的に発展していくうえで重要な課題である。本プロジェクトは、観光客と地域住民の「心」の距離を縮めるために何が必要なのか、について調査研究を行うものである。

## 2. 具体的な取組内容 小樽市を観光教育の拠点に！

環境公害の責任は観光客にある！という考え方では、「心の距離」は縮まらない。また、一時的に訪れる観光客側の習慣や価値観を変えることを通して問題解決を図ることは不可能に近い。

そこで、観光を受け入れる側に焦点を当て、「小樽にとって観光産業は必要不可欠」という意識を地元住民が持つこと、観光産業を自分ごとのように思えるようになるために「観光教育」を提案する。観光教育とは、観光を単なる経済活動として捉えるのではなく、地域を理解し、観光の価値をつくり出す力を育む教育であり、地域の魅力を知り、地元を誇りを持ち、それを自らの言葉で発信できる人材の育成であり、。単に「観光業に従事する人材育成」ではなく、「観光を通じて地域をよりよくする人づくり」を目指すものである。観光教育により、環境公害による市民の不満を長期的に解消することが可能である。

### ・初等・中等教育課程における「総合的な学習」

小樽の魅力を再発見し、自分と地域をつなぐ視点を育て、若い世代の将来的な地元定着、地域貢献意識を促進する。小学生は、自分たちの住む街・小樽の好きなところを発表する、グループに分かれて小樽市内を見学、最終的に学習を通して見つけた小樽の魅力をポスターにまとめてもう一度発表する。中学、高校では「小樽の魅力を伝える」ことに特化した学習を行い、外国人観光客に向けた小樽の紹介動画の作成を行うことで、語学力の育成も進めることができる。初等・中等教育に共通して発表の場を設け、保護者の方、地域の方に見てもらうことによって、この「観光を自分ごと、観光が地域を支える」と感覚を地元市民に広げていく。

### ・高等教育課程

おたる国際福祉・観光専修学院、小樽商科大学、北海道大学観光学高等研究センターが連携し、実践学習と理論学習を組み合わせた育成プログラムを新設する。大学を拠点としたMICEの誘致を行い、“観光を学ぶなら小樽”というブランドの確立をすることによって、小樽を第二の故郷として大切に思う学生の育成が可能となり、卒業後に、観光産業のみならず、小樽の市政の中心を担う人材を確保する。

## 3. プロジェクトの成果及び地域への還元

2月17日、小樽市長崎屋1階公共プラザで市民向けに研究成果を発表し、有益な意見をもらった。観光によって小樽市が支えられているという意見を持つ市民が多く、環境公害に対する不満があまり聞かれなかった。それ以上に、小樽の若者が地元に残らないことに対する懸念が多く聞かれ、地域振興のために若者がもっと活躍してほしい、今の小樽市は若者が魅力を感じる街になっていないという行政に対する不満が多く聞かれた。このことから、小樽市の場合、環境公害それ自体の問題というよりも、観光産業が街の活性化に繋がっていないこと、若者が地元に残らないことが課題であるといえる。

市民の声は、環境公害の解決には、観光教育を初等・中等・高等教育カリキュラムに取り入れ、小樽市の行政に関わる人材育成の基盤づくりが重要である、という本プロジェクトの提案と一致しており、今後の課題解決に向けてさらに活動を進めていきたい。



# 小樽商科大学 張ゼミナール 地方創生プロジェクト

## 小樽市を観光教育の拠点に!

### はじめに

外国人観光客にも人気のまち、小樽。歴史ある街並みや運河、食文化など、多くの魅力が国内外から愛されています。

一方で、観光客の増加により、混雑、騒音、ごみ問題、私有地への侵入など、生活環境への課題が生まれています。

観光地としての発展と暮らしやすいまちづくりを両立させるため、観光教育を通して、小樽に暮らす人と小樽を訪れる人をつなぐ力を育て、小樽の観光を将来にわたって持続させる第一歩とします。

### 観光を学ぶなら小樽

#### 大学と専門学校がまちを育てる

#### 大学



まちをキャンパスにした観光の専門教育

#### 専門学校



泊まれる教材。学生が運営するホテル

小樽への地域貢献



#### 課題点

受け入れ体制の整備	従業員の高齢化や人手不足等の事情で受け入れが困難になる可能性
専門性を持つ人材の確保	国際対応・通訳等の専門知識を持った人材確保が必須
経済的制限	市の財政状況的に、新たな事業を興すことが難しい

### 小中高ステップアップ型観光教育

小学校3年生～高校生までに導入されている総合的な学習の時間は、その目的・内容を各学校で定めることが認められています。

以下は、この時間を活用した観光教育の実践イメージです。

#### 小学校



小樽の魅力を見つける

「小樽の好きなところは？」  
観光地見学・ポスター発表

小樽の良さに気づく  
愛着を育てる

#### 中学校



小樽の魅力を伝える

英語での観光紹介動画・パンフレット作成  
観光客へのインタビュー

小学校から学んだ  
小樽の魅力を外に伝える  
語学力育成

#### 高校



小樽の担い手を目指す

小樽の課題を見つけ、解決策を考える  
SGH先行校の活動を学び、将来的なSGH指定を目指す

観光を通じて世界とつながる力を育てる

SGH：スーパーグローバルハイスクール  
文部科学省がグローバルリーダーの人材育成を行う高校を指定する制度

#### 他の自治体の事例



岩手県盛岡市  
市と提携した地方創生

- ・総合的な学習の時間を使って地方創生について学ぶ
- ・市役所、大学、民間団体等と高校が連携



北海道三笠市  
高校生レストラン

- ・レストランでの実践等を通じ、『食のプロフェッショナル』を育成
- ・卒業生が市内で飲食店を開業するなど卒業後もそれぞれの形で地域と関わる

#### おわりに

観光教育は、小樽と人をつなぎ、さらに将来、小樽を担う人材を育てる基盤となると考えています。

私たちの考える観光教育の改善点や、観光によって生まれている課題について、ぜひみなさんの声を聞かせてください。



市民と観光客の、心の距離を縮める

# 小樽市を観光教育の拠点に！



## 01 小樽市の現状

## 02 提言

- ..... ①観光を自分ごとにする小中高ステップアップ型教育
- ..... ②”観光を学ぶなら小樽！”というブランド化

## 03 施策の実現に向けて

## 04 おわりに

---

---

01

+

小樽市の現状

+

## メリット

- ・ 経済効果の拡大  
→ 観光客増加による売り上げ上昇
- ・ 雇用の増加

## デメリット

- ・ 混雑や生活への影響  
→ 住民の敷地侵入、交通妨害
- ・ 環境・衛生問題  
→ ごみのポイ捨て

次の行為は犯罪です  
懲役や罰金等が科せられます

- ・ 線路で立ち止まる行為
- ・ 他人の土地に無断で入る行為
- ・ 駐車禁止場所に駐車する行為
- ・ 道路や他人の土地にゴミを捨てる行為
- ・ 道路上で写真撮影する等車の通行を妨げる行為



Following acts are crimes  
Imprisonment or fines will be imposed on you

- ・ Staying on the railroad tracks
- ・ Entering into the other person's premises without permission
- ・ Parking on "NO PARKING AREA"
- ・ Littering on the roads or the other person's premises
- ・ Obstruction of the traffic vehicles such as taking photos on the roads

以下所述的是犯罪行为  
即使做这些行为,  
很有可能会被判徒刑、  
被处以罚金

- ・ 在铁路线内停步、站住
- ・ 擅入他人的土地
- ・ 把汽车停在禁止停车的地方
- ・ 把垃圾扔到道路上或他人的土地
- ・ 在道路上拍照等而妨碍汽车来往

以下所述的是犯罪行为  
即使做这些行为,  
很有可能会被判徒刑、  
被处以罚金

- ・ 在鐵路線內停步，站住
- ・ 擅入他人的土地
- ・ 把汽車停在禁止停車的地方
- ・ 把垃圾扔到道路上或他人的土地
- ・ 在道路上拍照等而防礙汽車來往

다음 행위는 범죄입니다  
징역 또는 벌금 등이 부과됩니다

- ・ 선로에 멈춰 서 있는 행위
- ・ 타인의 토지에 무단으로 들어가는 행위
- ・ 주차금지 장소에 주차하는 행위
- ・ 도로나 타인의 토지에 쓰레기를 버리는 행위
- ・ 도로 위에서 사진을 촬영하는 등 차량의 통행을 방해하는 행위

**No!!**

小樽市 OTARU CITY  
小樽警察署 OTARU POLICE STATION

## メリット

- ・ 経済効果の拡大  
→ 観光客増加による売り上げ上昇
- ・ 雇用の増加

## デメリット

- ・ 混雑や生活への影響  
→ 住民の敷地侵入、交通妨害
- ・ 環境・衛生問題  
→ ごみのポイ捨て



心理的距離

次の行為は犯罪です  
懲役や罰金等が科せられます

- ・ 線路で立ち止まる行為
- ・ 他人の土地に無断で入る行為
- ・ 駐車禁止場所に駐車する行為
- ・ 道路や他人の土地にゴミを捨てる行為
- ・ 道路上で写真撮影する等車の通行を妨げる行為



Following acts are crimes  
Imprisonment or fines will be imposed on you

- ・ Staying on the railroad tracks
- ・ Entering into the other person's premises without permission
- ・ Parking on "NO PARKING AREA"
- ・ Littering on the roads or the other person's premises
- ・ Obstruction of the traffic vehicles such as taking photos on the roads

以下所述的是犯罪行为  
即使做这些行为,  
很有可能会被判徒刑、  
被科以罚金

- ・ 在铁路线内停步、站住
- ・ 擅入他人的土地
- ・ 把汽车停在禁止停车的地方
- ・ 把垃圾扔到道路上或他人的土地
- ・ 在道路上拍照等而妨碍汽车来往

以下所述的是犯罪行为  
即使做这些行为,  
很有可能会被判徒刑、  
被科以罚金

- ・ 在鐵路線內停步，站住
- ・ 擅入他人的土地
- ・ 把汽車停在禁止停車的地方
- ・ 把垃圾扔到道路上或他人的土地
- ・ 在道路上拍照等而防礙汽車來往

다음 행위는 범죄입니다  
징역 또는 벌금 등이 부과됩니다

- ・ 선로에 멈춰 서 있는 행위
- ・ 타인의 토지에 무단으로 들어가는 행위
- ・ 주차금지 장소에 주차하는 행위
- ・ 도로나 타인의 토지에 쓰레기를 버리는 행위
- ・ 도로 위에서 사진을 촬영하는 등 차량의 통행을 방해하는 행위

No!!

小樽市 OTARU CITY  
小樽警察署 OTARU POLICE STATION

観光客と地元市民の心の距離  
⇒主に観光客に対する地元市民の不満

「小樽が観光で栄えているからこそ、小樽は豊かな街になっている」  
という意識を地元市民に持ってもらう

「観光＝観光客のためのもの」から  
「観光＝自分たちの地域の魅力をともに育てる活動」へ  
⇒観光客への理解、心の距離を埋める

『小樽の価値を理解し、観光客との共生を考える教育』を推進

---

---

02



提言



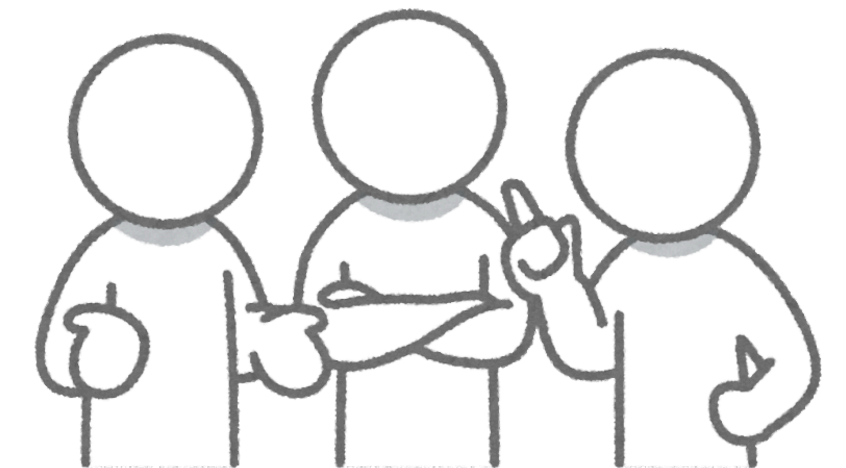
## 『観光を自分ごとにするための観光教育』

観光は小樽を支える大きな柱

しかし、多くの子供にとっての観光は「観光客が楽しむもの」であり、  
自分の生活・地域の未来とつながるものとして認識できていないのではないか？

小中高での観光教育を通して、  
小樽の魅力を発見し、自分と地域をつなぐ視点を育てる

若い世代の将来的な地元定着・地域貢献意識を促進



## 学校指導要領 第5章

総合的な学習の時間の目標・内容を定めるのは各学校

目標及び内容の設定における配慮事項

「地域の実態に応じた教科等の枠を超えた学習」

「地域の特徴に応じた課題についての学習」

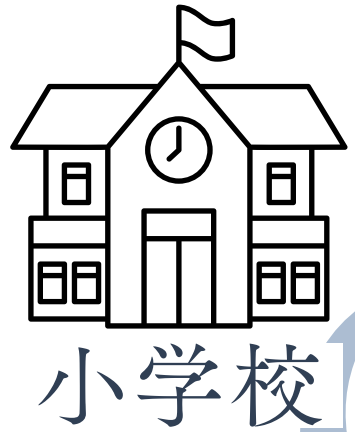
「国際理解」「社会体験」

「職業や自己の将来に関する学習」

「問題解決・探究活動によって将来の生き方を考える学習」

学校教育に新たな科目を  
設けることは難しい

総合的な学習の時間を  
活用することで解決



### 小樽の魅力を見つける

観光地見学 ポスターにまとめる  
⇒小樽の良さに気づき、愛着を育てる



### 小樽の魅力を伝える

英語での観光紹介動画・パンフレット作成  
観光客へのインタビューを行う  
⇒「外に伝える力」を養う



### 小樽の担い手を目指す

小樽の課題を見つけ、解決策を考える  
スーパーグローバルハイスクール(SGH)先行校の  
活動を学び、将来的にはSGH指定を目指す  
⇒観光を通じて世界とつながる力を育てる

学んだことを発表する場を設ける  
「観光を自分ごとに」という感覚を  
保護者・地元市民に広げる

### 観光関係者の講演

「観光が小樽を支えている」ことを  
現場の声から実感できる

### 観光ボランティアへの参加

観光の現場で学びを活かすことで  
生徒と地域が

相互に学び合う関係を形成

### 小樽の魅力発信コンテスト

優秀作品を市の観光PRに活用

### 1 学校の立地による教育内容の格差

観光地から離れている学校に導入するためには、  
観光現場を体験できる機会の確保が必要

### 2 教員側の知識・指導体制の不足

先行事例をもとに、  
教員も一緒に学んでいくことが必要

### 3 目的の曖昧さ

「地域理解」「職業教育」「国際理解」  
目的がふれやすく、軸の明確化が必要

### 4 学校と地域の持続的な協力体制づくり

観光教育の目的・内容の丁寧な共有  
「関わってよかった」と感じてもらえる活動に

## ②”観光を学ぶなら小樽！”というブランド化（大学・専門学校）

『観光に強い』  
小樽市ならではの  
街全体をキャンパスにした学び

学校を中心に、地域住民・観光  
客を巻き込んだ  
活気あるまちづくり

”観光を学ぶなら小樽！”というブランディングの確立を目指す



### 長期インターンシップ の単位化

- 現場力+地域理解の向上
- 若い発想による事業改善・人材育成
- 観光の質的向上



### 外国語学生ガイド 育成プログラム

- 語学を「実践」で磨き、国際対応力を獲得
- インバウンド対応力の向上



### 大学中心の MICE誘致

- 国際運営・通訳・イベントマネジメントの経験
- 関連需要（宿泊・飲食）の増加、ビジネス交流の拡大

### 受け入れ体制の整備

中小規模の観光関連企業は教育・指導の余裕がない可能性がある。

### 単位認定の基準作成

学習成果をどう評価するか、公平になるよう吟味することが必要。

### 法的配慮

報酬を出す場合は労働契約か教育活動かの線引きが必要。

### 語学教育との接続

授業（座学）と実践（ガイド活動）をどう結びつけるかのカリキュラム設計が必要。

### 安全管理と責任

事故・トラブル対応（保険、緊急時通訳など）の体制づくりが求められる。また、宗教・文化的配慮について学ぶ必要もある。

### 受け入れ環境

宿不足、交通機関の混雑等の課題がある中で、国際会議を行えるような環境整備が不可欠。

### 運営・人材面

MICE運営には、イベントマネジメント・国際対応・通訳・危機管理などの専門知識が必要。継続的な組織体制を構築する必要あり。

## 『観光に強い』即戦力を育てる

### 校舎併設の『学生ホテル』ですぐに実践

- ・校舎に隣接または併設された小規模ホテルなどを学生が実際に運営
- ・宿泊受付、予約対応、客室清掃、接客、レストラン運営まで実際の業務を学生主体で実践
- ・教員が現場監督・指導者として同行し、教育とビジネスを両立
- ・顧客満足度や収支データを教材化し、授業にフィードバックする「循環型学習」

### 『学生』を活かした、新たな観光体験

- ・学生が運営・管理を行うため、一般ホテルよりもリーズナブルな料金設定が可能。
- ・若い感性を活かした創意工夫のあるおもてなしを体験できる。
- ・調理科学生による地元食材を使った料理や、ホテル科学生による地域紹介ツアーなど、“学生らしさ”が生きる温かみのあるサービスを受けられる。
- ・「応援する宿泊」という新しい価値を提供。



### 経営上の課題

教育目的を優先する(価格を抑える)と、利益を出しにくい。

- ホテルの収益と維持コストのバランスを調整
- 費用面での自治体・企業等の支援が必要

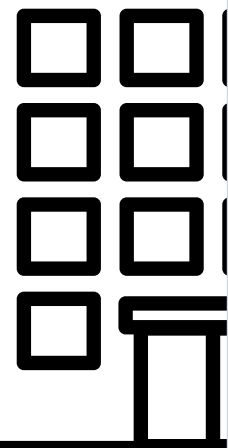
### 教育・カリキュラム上の課題

実際のホテル運営には高度な現場知識が必要

学生ホテルのサービス品質が低いと、小樽のイメージに悪影響を与える可能性も。

- 指導者を呼び込む必要性
- 第三者による監視・評価体制の構築も検討

HOT



---

---

03



施策の実現に向けて



## 世界観光倫理憲章／世界観光機関(UNWTO)

- 第一条** 多様な宗教、文化、価値観を尊重し、伝統や習慣を理解する姿勢を持つことは、責任ある観光の根幹
- 第二条** 観光は多様性に関して学ぶための必要不可欠な要素になる  
観光交流の価値、経済的・社会的・文化的な有用性及び観光に付帯するリスクに関する教育を教育プログラムに導入することは奨励されるべき
- 第三条** 観光開発のすべての利害関係者は、健全で、継続的で持続可能な経済成長を実現するために、自然環境の保全を図るべき
- 第五条** 地域住民は観光に関する活動を支持し、観光が生み出す経済的、社会的、文化的恩恵を公平に分ち合うべき

### 小樽市の財政状況

- ・ 標準的行政サービスの50%以上を、国からの地方交付税（普通交付税）に依存
- ・ 経常収支比率は90%を超える状況が続いている
  - ・・・新たな政策に使える財源が少ない



### 令和8年4月1日から「宿泊税」導入！

- ・ 宿泊者一人一泊200円徴収
- ・ 観光業のサービス拡充やインバウンド対策に使用予定

200円×98万3200人  
(R6年度総宿泊者数)



1兆9664万円の増収

### 岩手県盛岡市 市と提携した地方創生



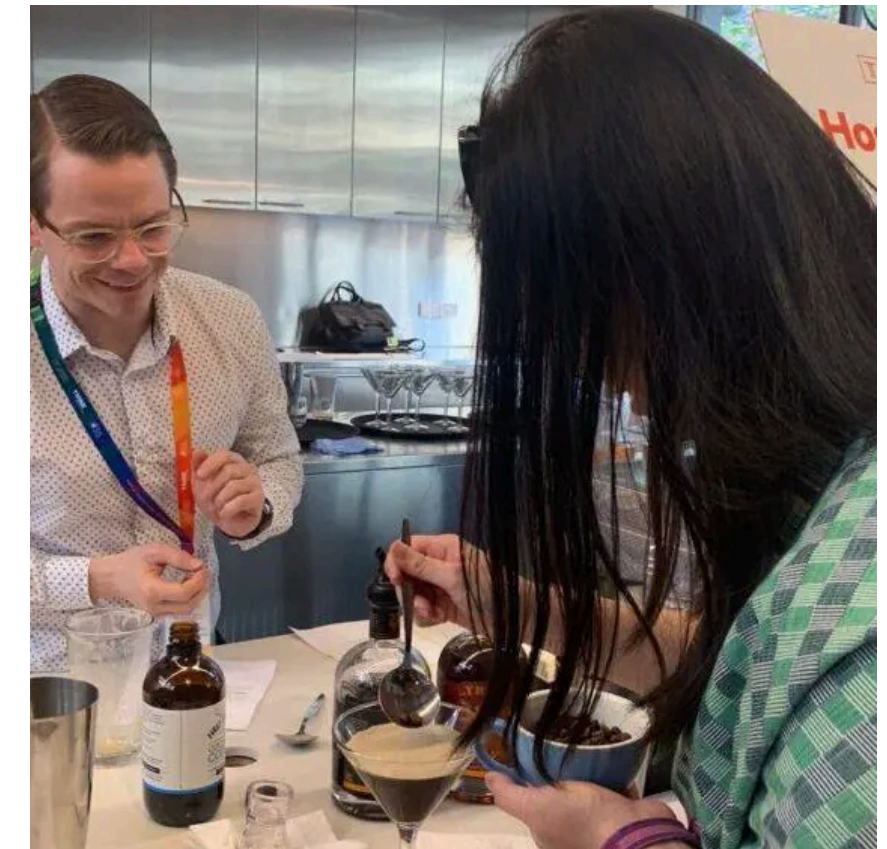
- ・総合的な学習の時間を使って地方創生について学ぶ
- ・市役所、大学、民間団体等と高校が連携

### 北海道三笠市 高校生レストラン



- ・レストランでの実践等を通じ、『食のプロフェッショナル』を育成
- ・卒業生が市内で飲食店を開業するなど卒業後もそれぞれの形で地域と関わる

### オーストラリア トーレンス大学 社会貢献活動



- ・キャンパス内に、学生の実務実習用ホテル
- ・観光イベントへの学生派遣や施設提供で地域へ貢献

THANK YOU!

04

市民と観光客の、心の距離を縮めるために

- ・小中高ステップアップ型観光教育
- ・大学・専門学校での専門教育



今後の小樽市の担い手となる若者を  
長期的に育成



# 不朽の灯クエスト

消えかけの小樽に再び灯を

STORY-この街で一体何が起きているのか

観光地として賑わう小樽。

しかし今、街ではある異変が起きている。

人は増えたが、心の距離は遠のいていった。

観光客は「見る人」、市民は「見られる人」。

このままでは、小樽の本当の灯が消えてしまう。

## QUEST-抱える課題

豊富な観光資源によって多くの観光客が小樽を訪れる。



観光収入は増加するが混雑や観光客によるマナー違反が目立つように…

## MISSION-解決にむけて

これらの問題は観光客の観光気分起因すると考えられる。

観光気分によって

観光客は「街を眺める側」

地元住民は「眺められる側」という前提になることで、お互いの心の距離は広がっていく。

ならば…

観光客＝街の中で何かを体験し、地域と関わる人、

と位置付けることで心の距離を縮められるのではないか

## 不朽の灯クエスト

街全体を舞台にした参加型の観光ゲーム。地元民と交流を楽しみたい観光客はリストバンドを装着。地元民はそれぞれ小樽の歴史や思いを語る。

地元民＝語り手

観光客＝聞く人

として対等な関係を築いていく。

報酬として、

- ・小樽限定の記念品
- ・デジタル記録として残る証
- ・「街に参加した」実感

目的は攻略ではなく、小樽の様々な話を聞くこと

地元民は対等な交流の機会を、観光客は文化的な理解や、ゲームの世界観を楽しめる。観光客に世界観を守る意識交流する意識が発達し、小樽により良い活気が芽生える